

様式第10

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
英田圏域	美作市、西粟倉村	平成29～令和3年度	平成29～令和3年度 平成31～令和3年度（事業なし）

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標		現状 (割合※1) (平成27年度)	目標 (割合※1) (令和4年度) A	実績 (割合※1) (令和4年度) B	実績B /目標A
排 出 量	事業系 総排出量	t	t (%)	t (%)	%
	1事業所当たりの排出量 (※2)	t/事業所	t/事業所 (%)	t/事業所 (%)	%
	家庭系 総排出量	5,587t	4,939t (-11.6%)	5,863t (4.9%)	-42.2%
	1人当たりの排出量 (※2)	183kg/人	173kg/人 (- 5.5%)	216kg/人 (18%)	-327%
	合 計 事業系家庭系総排出量合計	t	t (%)	t (%)	%
再生利用量	直接資源化量	532 t (6.3%)	498 t (6.4%)	367 t (5.8%)	-500%
	総資源化量	2,138 t (25.2%)	2,012 t (25.9%)	1,377 t (21.6%)	-514%
エネルギー 回 収 量	エネルギー回収量 (年間の発電電力量)	- MWh (-)	- MWh (-)	- MWh (-)	-
最終処分量	埋立最終処分量	98t (1.2%)	70t (0.9%)	82t (1.3%)	-33%

※1 排出量は現状に対する割合、その他の指標は排出量に対する割合

※2 1事業所当たり、1人当たりの排出量の算出に用いた平成29年度実績の事業所数は1,374事業所、人口は29,524人である。

※3 平成28年度経済センサス活動調査結果より、美作市1,304事業所、西粟倉村70事業所

2 目標が達成できなかった要因

○排出量

事業系では総排出量、事業所当たりの排出量ともに減量、目標を達成している。

家庭系では総排出量、1人当たりの排出量ともに増加した。これはコロナ禍の影響により外出を控え家庭で過ごす時間が増加したためと考えられる。

○資源化量

達成できなかった要因として、ごみ総排出量の減少に伴い、資源ごみ自体も減少していることが考えられる。特に紙系資源の大きな減少が挙げられる。資源化ルートとして、民間資源回収ステーションの設置などが増えてきており、資源化が進んでいると考えられる。

○最終処分量

クリーンセンターへの陶器搬入量が多かったため。これは人口減少による空家が増加しており片付けが増加したためと考えられる。

3 目標の達成状況に向けた方策

目標達成年度：令和9年度

目標達成できなかった項目について、以下の対策を講じる。

○排出抑制・再生利用

家庭系総排出量、家庭系1人当たりの排出量ともに、目標に及んでいないことから、現状施策を継続することともに、広報誌、ホームページ、チラシ等を通じた、ごみの減量化・資源化についての啓発活動や、リユース、リサイクルに関するイベントの開催により、啓発の更なる充実を図り、排出抑制や資源回収率の向上に努める。

○最終処分量

最終処分を行っている陶器類について分別・選別を徹底し再資源化、減容に努める。

(都道府県知事の所見)

改善計画にある目標達成に向けた施策について、確実に実施することにより、循環型社会形成に向けた廃棄物の排出抑制、リサイクル率の向上に取り組まれない。